

車いす生活 快適・安全に

高齢者や障害者が椅子や車いすに快適に座ることができるように支援するシーティング。座り方で誤嚥や褥瘡(床ずれ)などの二次障害につながる危険性があり、国内第1号のシーティング・コンサルタントで養和病院(米子市上後藤3丁目)の理学療法士、土中伸樹さん(59)は「介護度を上げないためにも正しい知識を」と呼び掛けている。(渡部ちぐみ)

誤嚥や褥瘡

座り方で防止

シーティングは椅子や車いすを利用して生活する人を対象に座位に関する評価や対応を行い、適切な座位姿勢を実現するためのケア。海外では一般的だが、国内では2017年に理学療法士が行うリハビリとして認められ、高齢者のシーティングケアの手引も作成された。

2カ月で改善

蘇生後脳症で寝たきり状態になった米子市の男性(35)は、体に合わない車いすを使っていたため座骨部分に骨まで達するような褥瘡ができ、誤嚥性肺炎も繰り返ししていた。

相談件数が増加

食事の際は体幹を保持し足底を接地させることが重要で、適切な座面やリクライニ

「シーティング」知って

ングの角度をシーティング・コンサルタントが評価。ベッドで取っていた食事を車いすに変えることで食事の摂取量が上がったり、誤嚥を防いだりする効果も期待できる。

養和病院ではシーティングに関する相談が年々増え、昨年度は51件が寄せられた。県内のシーティング・コンサルタントはまだ数人だが、理学療法士養成のカリキュラムにシーティングが組み込まれるなど徐々に広まりつつある。

土中さんは「寝たきりだけでなく、ずっと座っていることでも二次障害の危険性があることを、関わる人たちに広く知ってもらいたい」と話している。



座圧を測りながら車いすや姿勢の調整をする土中さん(右)＝米子市上後藤3丁目の養和病院